

1 題材名

『どうにかしてこの水を 取りのぞくのだ』 <4年 社会科 歴史的分野>
～水害とたたかう 染谷源右衛門～

2 授業のねらい

- ①印旛沼の水害を防ぐために、水害の水を東京湾に流す工事を最初に行った染谷源右衛門の業績を取り上げて、源右衛門が2つの川を繋ぐ工事を完成させようとする努力や工夫について考えます。
- ②平戸川と花見川の2つの川を繋いで、印旛沼の水を東京湾に流そうとした源右衛門の工事のアイデアを取り上げて、なぜこの工事を行おうとしたのかを地図や資料をもとに予想します。
- ③染谷源右衛門の工事は失敗したが、その工事のアイデアと計画は、約240年後の昭和の時代の工事にまで受け継がれる素晴らしいものであったということを話し合います。

3 指導計画上の位置付け

- ◇4年生社会科指導計画 4「千葉県の伝統や文化、先人のはたらき」と関連します。
- ◇副読本P94 4ー2③「花見川をひらく」に対応する1時間の学習です。

4 予想される授業の流れと指導資料

- ①明治時代の印旛沼と昭和の開発後の写真を比べて、なぜ大きく形が違ってしまったのかに疑問を持ち、印旛沼は水害が頻繁に起きて人々はとても困っていたことを年表から読み取ります。
- ②伝記「千葉の先人たち」から源右衛門の水害を防ぎたいという願いを読み取り、印旛沼の立体模型に実際に色水を流して疑似的に水害を起こし、児童も源右衛門になりきって印旛沼の水害を防ぐためにどのような工事をしたのかという問題を立てます。
- ③予想するために印旛沼や東京湾の位置、平戸川と花見川の位置、川の流れの方向等の条件を確認して、印旛沼に溜まった水をどのようにしたら減らせるのかを個人やグループで予想します。
- ④「千葉の先人たち」から当時の工事道具や、機械が無く全部手作業等の当時の工事の条件を紹介して、源右衛門はなぜ自分の全財産を使ってまでこの工事をやり遂げようとしたのかを、村人の立場から話し合いを深めます。
- ⑤源右衛門の工事年表から、工事は失敗したがその工事のアイデアはその後の工事に引き継がれて、ついに昭和の工事では完成したことを理解します。さらに、源右衛門の工事にかけた思いについて振り返りを書き、自分の考えを発表します。

<活用する資料>

- ◎明治時代の印旛沼と昭和の開発後の印旛沼写真
- ◎4年生副読本「かがやく千葉県」
- ◎千葉市地図や印旛沼の立体模型（学校社会科備品）
- ◎水害の様子動画や写真
- ◎伝記「千葉の先人たち」（多くの学校の図書室蔵書）
- ◎源右衛門の工事関係年表

5 指導上の留意点、その他

- ◇一時間の授業なので、染谷源右衛門が印旛沼の工事を行う場面を中心に取り上げます。印旛沼の水害の原因や、印旛沼の水害を防ぐ工事の難しさ等の詳しい学習は時間的に難しいので、その内容も含めた複数時間の授業の希望については、各学校と事前に相談したいと思います。
- ◇源右衛門の工事は結果として失敗はしたが、水害を防ぎたいという願いや工事へのアイデアは後の世にも長く引き継がれていったということ、児童にぜひ考えさせていきたいと思っています。